

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

90

秋の企画展

遠藤香村展

会津に生きた会津の画人

福島県立博物館





波に千鳥図 文久2年(1862)個人蔵

関連行事

企画展「遠藤香村」の会期中さまざまなイベント、講座をご用意します。
香村作品の鑑賞とあわせて江戸時代にはまってみませんか。

記念公演

「香村が見た 聞いた 江戸時代の怪事件」

講師：詩人 和合亮一さん FTV アナウンサー 浜中順子さん 他

日時：11月16日(日)午後1時30分～3時

会場：企画展示室

*当日有効の企画展チケットが必要

遠藤香村が書き残したと伝えられる資料には、絵に関する事はもちろん、歴史、医学の知識、その他、不思議な話、珍しい事件などがさまざまな本や、人々からの聞き書きによって集められています。

今回のイベントでは、山伏が瞬間に人を移動させる話、七色に光る飛行物体の話など4篇を詩人・和合亮一さん他による個性的な朗読パフォーマンスと、会津若松在住のアーティストが描いたイメージ映像をご紹介します。

記念講座

「見てみよう やってみよう 江戸の芸能体験1・2」

講師：会津能楽会の皆さん

日時：10月12日(日) 26日(日) 午後1時30分～3時

会場：視聴覚室 / 企画展示室

定員：20名(要申込・先着順・見学のみの方は申込不要)

*当日有効の企画展チケットが必要

日本の文化に深く根をおろした伝統芸能・能楽。能楽を知る事は、日本の文化に親しむ近道とも言えるでしょう。

会津能楽会の皆さんによるやさしい能の体験講座で、見るだけだった能に実際に触れてみませんか。楽譜を使って音を出し、舞の基本を体験します。簡単な練習の後には講師の先生の模範演技を企画展示室特設和室で楽しみましょう。

美術講座

「縁起物を作ろう 鯉の滝登りを描こう / やきもので作る七福神」

講師：福島大学准教授 渡邊晃一さん 陶芸作家 金山忍さん

日時：11月2日(日) 午前10時30分～12時(鯉)
午後1時30分～3時(七福神)

会場：実習室

定員：20名(要申込・先着順)

参加費：100円(鯉) / 2000円(七福神)

幸せを願うためのさまざまな縁起物。全国に知られる会津の起き上がり小法師も家内安全を祈る縁起物です。

午前中は「鯉の滝登り」の絵に挑戦します。「鯉の滝登り」は、滝を登りきった鯉が龍に化したという立身出世のたとえ話。めでたさ満点のテーマです。幸せを呼ぶお土産を持って帰ってください。

数ある縁起物の中でも、インド・中国・日本の神が集めた七福神はご利益も万能。縁起物の代表格です。午後は、七福神の由来を考えながら、皆さんだけの七福神を作りします。

要申込みのイベントは開催日の1ヵ月前から募集を開始します。



萩れんげ図

遠藤香村画・市原多代女賛 個人蔵

市原多代女は、須賀川の商家に生まれ、須賀川の俳壇で活躍した。香村が描き、多代女が句を寄せた作品がいくつか残っている。

現在もお、比較的多くを確認できる香村作品ですが、近い将来、それらも多くが散逸してしまう可能性は否定できません。そこで、現在までに調査を進めた香村作品を展示公開し、おそらく全国的にはいまだ無名画家の位置にある、遠藤香村を再評価するのが本展の目的です。

とは言え、まずは香村作品を見て、楽しんでください。会期中は江戸時代に心を遊ばせるユニークな講座もご用意しました。紅葉の季節、どうぞ会場にお越し下さい。

(美術担当 川延安直)



走水図屏風 弘化3年(1846)個人蔵



DO YOU KNOW KOUSON?

秋の企画展 遠藤香村展

会津に生まれた会津の画人

会期 10月11日(土)～11月24日(月)

香村って誰？

遠藤香村は、江戸時代の後期、天明七年(一七八七)会津若松城下の南、大戸村香塩に生まれたと伝えられる画人です。香村の詳しい経歴を記した当時の資料は残念ながら残されていませんが、その略歴を後世のいくつかの資料に見ることが出来ます。それによると、幼い頃は恵まれた生活ではなかったものの、会津若松で絵の手ほどきを受け、その後、江戸に出て関東画壇の中心・谷文晁の画塾に入門。さらに、京都・大坂で、関西の主流であった円山四条派の技法も身につけます。また、須賀川出身の亜欧堂田善からは洋風画の技法を学んだと考えられます。

当時の文晁門下には、同じ会津若松出身の佐竹永海がいましたが、永海が江戸を活動の拠点としたのに対し、修業を終えた香村は会津の地に戻ります。会津では藩の命を受け本郷焼や会津漆器の改良に努めたとも言われます。絵の他に俳諧にも通じ、俳諧を通して多くの人々と交流、江戸時代後期の会津を代表する文化人の一人としてこの地で盛んな制作活動を繰り広げました。

香村作品から知る

江戸時代会津の「センス」

会津地域を中心に残された作品の多さからは、会津の人々の香村作品への幅広い支持が想像できます。大正時代の雰囲気竹久夢二の作品によって代表されるように、香村の作品群からは、当時の会津の人々の「センス」がうかがえるのではないのでしょうか。

(表紙)韓信・岳飛図屏風(右隻・部分)個人蔵

夏の企画展

「宝の山2008」

磐梯山をめぐる人と自然

関連行事

記念講演会・パネルディスカッション

平成二〇年七月二七日(日)

演題「磐梯山噴火に地元の人々はどう対処したか」

避難・救援救護・災害記録とその意義」

講師 岩手県立大学名誉教授 米地 文夫さん

テーマ「磐梯山噴火をめぐる謎に迫る！」

パネラー 岩手県立大学名誉教授 米地 文夫さん

野口英世記念館学芸課長 小松山六郎さん

磐梯山噴火記念館副館長 佐藤 公さん

福島県立博物館専門学芸員 竹谷 陽二郎

福島県立博物館学芸課長 藤原 妃敏

コーディネーター

福島県立博物館学芸課長

藤原 妃敏

米地先生の講演は、明治二二年の磐梯山噴火の際に、地元や周辺の地域の人びとが行った様々な活動を紹介します。それらを高く評価するという内容でした。噴火当日のスケッチや手記・聞き取り調査の記録などは、噴火に関する研究に大いに役立つものになりました。噴火後の救援救護には、郡役所・警察、一般市民が様々な形で携わり、また地元で暮らす人びとが備えていた山崩れや湖の決壊に関する知恵や知識が、人的被害を軽減させることにもなりました。続くパネルディスカッションは、1「小磐梯山崩



壊の謎に迫る」(竹谷) 2「写真師・遠藤陸郎の謎に迫る」(佐藤) 3「磐梯山噴火と野口英世そして恩師小林栄」(小松山) という三つのテーマについて、それぞれ担当者が報告した後に、パネラーの間で意見交換が行われました。専門分野の異なるパネラーから出される様々な意見は、それぞれのテーマをさらに深く掘り下げ、ときに見解が対立することもあって、最後まで会場の注目を集めていました。

フォーラム・公演

「玄如節 民謡『会津磐梯山』のルーツをたどる」

平成二〇年八月三日(日)

講師 玄如節顕彰会の皆さん

会津を代表する民謡「会津磐梯山」の元歌ともされる玄如節。その伝統を今日に継承する玄如節顕彰会の皆さんを講師としてお招きしました。

第一部のフォーラムは、玄如節の歴史や民俗について紹介する内容で、玄如節顕彰会の千葉作美会長、芳賀幸雄副会長、新井田忠誠理事をパネリスト



民謡「会津磐梯山」はとても有名ですが、元歌とされる玄如節のことも県立博物館の側に「玄如節碑」が建っていることなどはあまり知られていません。熱気あふれる民謡の歌声や踊りとともに、玄如節のことは来場者の皆さんの記憶の中に強く残ったにちがいありません。(歴史担当 高橋充)

Q：中国風の人物を描いた掛軸が家にあるのですが、誰なのかわかりません。箒を持った人と巻物を持った人が描かれています。誰なのでしょう？
A：箒を持った人と巻物を持った人が描かれているのでしたら、お持ちの掛軸に描かれているのは「寒山」と「拾得」という二人です。巻物を持っているのが寒山。箒を持っているのが拾得。この二人、ぼさぼさの頭で汚い身なりをして、子どものような顔立ちではありませんか？
寒山は中国の天台山に隠れ住んでいた隠者。拾得は天台山中の国清寺の下働き。身なりに頓着しないその風変わりな風貌と奇矯な行動から、やがて二人

この人は誰でしょう？

は僧侶たちに特別な存在として認識されるようになり、とうとう菩薩の化身とまで言われるようになります。詩が好きで、詩を詠んでは天台山中の岩に書きつけていたという寒山は巻物を手にして文殊菩薩の、国清寺で下働きをしていた拾得は箒をトレードマークにした普賢菩薩の化身となりました。

普通の人間とはちょっと違っていたから菩薩の化身とされた二人なのですが、菩薩サマの化身であるからにはそのへんの人間と同じはずはないと、その解釈はさらにエスカレートしていきます。本来の姿からかけ離れ、二人とも無邪気な子どもの容貌をした異能の存在としてイメージされていきました。

Q&A 小林めぐみ

回答者 美術担当

周囲の状況などで身元がわかりません。例えば、現在でも有名な『三国志』の勇将・関羽でしたら髯が長い武人姿で青龍刀という柄の長い武器を持っているといった、その人を成り立たせている約束事があるからです。昔の人びとにとっては一般常識だったこの約束事が、現在では残念ながら特別な知識になりつつあります。

もし、皆さんの周辺に身元不明の中国出身らしき人物図があったら、じっくり観察してみてください。服装は身分を教えてください。何か持っていますか？何をしていますか？どこにいますか？絵の中のヒントが正体を教えてください。かもしれません。

遠藤香村が描いた二つの「寒山拾得図」。同じ人物が描いても、描き方で大きく異なっています。そのほかにも香村が描いた中国の人物図が「遠藤香村」展で多数展示されます。



「寒山拾得図」(部分) 遠藤香村筆 個人蔵



「寒山拾得図」(部分) 遠藤香村筆 個人蔵

遠藤香村が書き留めた 江戸のUFO?

川延安直 美術担当

怖いもの不思議なものに引かれる心情は、テクノロジーが発達した現代に生きる我々も江戸時代の人々も変わりません。ここに紹介する一編は江戸時代後期の会津の画人・遠藤香村が書き留めた会津若松で起こった不思議な現象についてのものです。一八〇年近く前の出来事ですが、会津で起こった不思議な現象に興味は尽きません。

近年、香村自筆の可能性が高い貴重な資料『画学須知』、『石田拾穂』が会津若松市に収蔵されました。『画学須知』には、絵画技法、画論、本草学、医学、蘭学その他諸学、風聞など約三三〇項目が記されています。磯崎康彦氏も指摘しているように、『中陵漫録』(本草学者佐藤中陵の著作。中陵は会津藩に仕えたこともある。)『紅毛雑話』(蘭学者・森島中良が著した蘭学に関する著作。)などの他、『佩文齋書画譜』などの画論書、平賀源内の薬品解説書『物類品隲』、『枕草子』、『古今著聞集』などの古典からの引用が多く見られ、画家の読書量と幅広い分野への関心、学習が窺い知れます。

『石田拾穂』には、二二〇項目が記され、絵画に関する項目が中心の『画学須知』では取り上げられなかった、地震、屋敷など自然現象、各地の民俗行事などの記述が多く、天狗の話、鼠の妖怪などの荒唐無稽な奇談も含まれており、香村の好奇心が

生き生きと伝わってきます。奇談の中には、会津が舞台となり会津藩士らが体験した身近な体験談が含まれています。その一つに、会津での「江戸時代のUFO」目撃談とでも呼ぶべきものがあります。

怪談・奇談は江戸時代の知識人たちの心を強く捉えていました。彼らと同じ精神の持ち主であったろう香村が『石田拾穂』に奇談を書き残したように、江戸時代後期、『南総里見八犬伝』の作者・曲亭馬琴らが中心となり江戸で「兎園会」という会合が催されていました。馬琴の他、山崎美成、屋代弘賢ら当時の文人一〇数名が月一回集り、珍談・奇談を披露し、ここで披露された話は『兎園小説』としてまとめられました。その中に「江戸のUFO」として良く知られる「虚舟」の一編があります。

「虚舟」は常陸国(現在の茨城県)沖に現れた不思議な舟?で椀をかぶせた球体に近い形でガラスや鉄板のような物で造られ、記号のようなものが記されていました。異装の女性に乗っていました。言葉は通じなかつたといひます。当時の文人やUFOマニアならずとも興味をそそられる内容ですが、ここではこれ以上は触れませんが、香村の書き残した奇談の紹介に移りましょう。

文政一三・天保元年(一八三〇)年六月六日の午前一〇時頃、天気は快晴。鶴ヶ城西方のある川の土手でそれは起こりました。目撃者は横山秀徳の孫娘と農民八郎兵衛の娘、ともに一歳。この日二人は川沿いを散歩していました。突然の風音が二人を驚かせましたが、風はなく、竹藪がざわめいているだけでした。二人が竹藪に目を凝らすと飯椀位の大きさで真っ黒な物体が見えました。それが竹藪から突然飛び出し川の中に飛び込むと、沸騰したお湯のように川の水は膨れ上がり四方に飛び散りました。逆巻く水の中に見えた黒い物体は牛の角のように中に

火のような光が強く燃えており、この後、怪物はさまざまな色と形に変化し、終には突然に青空の中に消え去ったのだといひます。

香村は文末でこの怪現象について、突風が川の水を吹き散らしてそこに日光が反射したため虹のように見えたのかもしれないと、まとめていますが、果して真相はいかなることであったのでしょうか。この不思議な現象、企画展「遠藤香村」のイベント、香村が見た聞いた「江戸時代の怪事件」で詳しく紹介します。



高橋克幸君が描いた謎の発光物体のイメージ

福島県立会津工業高校3年生の高橋克幸君が描いたこの絵が「香村が見た聞いた「江戸時代の怪事件」」で登場します。どのように使われるのかは、イベント当日のお楽しみですよ。

秋のミュージアムイベント

10月

警女唄の魅力

盲目の女旅芸人警女は、新潟県を中心に各地を廻って三味線と唄を披露し人々に親しまれました。しかし、時が経ち、人間国宝の小林ハルさんを最後に警女は姿を消します。警女が姿を消しても、警女唄の魅力は伝えようと活動している人は少なくありません。警女唄伝承者の菅森直子さんと小林ハルさんの姿を描き続けた画家・木下晋さんに、小林ハルさんの思い出と、警女唄の魅力をつかがいます。



「警女唄を知っていますか」

10月18日(土)午後1時半~3時
出演:警女唄伝承者 菅森直子さん 画家 木下晋さん
司会:館長 赤坂憲雄
エントランスホール
入場無料

11月

高橋克彦さんが語る会津

NHK大河ドラマ「炎立つ」、「北条時宗」の原作者として知られる高橋克彦さん。歴史小説以外でも、SF、ミステリー、ホラーなど幅広いジャンルで活躍されています。現在、「土方歳三の物語」を準備中の高橋さんに、会津への思いを語っていただきます。ご期待下さい。



福島県立博物館友の会
創立20周年記念講演会

「北の炎」

11月15日(土)午後2時~3時半
講師:作家 高橋克彦さん
聞き手:館長 赤坂憲雄
講堂
入場無料
主催 福島県立博物館友の会

*当日午前10時より、講堂前で整理券を配布します。
*開場 午後1時
*午後1時半~午後2時に、福島県立博物館友の会創立20周年記念式典を行います。

冬の展示 予告

野山の宝 化石・鉱物展

福島県立博物館友の会・県立博物館共催展
化石・鉱物探検隊10周年成果展

- 展示構成(予定)
 - 探検隊員が採集した化石・鉱物・岩石標本
 - 探検隊員の研究資料
 - 化石・鉱物解説コーナー
 - 10年のあゆみ回顧展
 - 化石・鉱物プレゼントコーナー



採集した植物化石の鑑定研修会の様子
丸内は、鑑定されたヤベランダイクウバシ
(クスノキ科 新生代鮮新世前期 福島市飯坂町中野 赤川層 探検隊個人蔵)

化石・鉱物探検隊は、「県立博物館友の会」会員の有志でつくる研究サークルです。平成二一年で結成一〇周年の節目を迎えます。これまで、福島県内・隣県を活動のフィールドとして、化石や岩石・鉱物の採集を行うと共に調査研究を精力的に行っています。この一〇年の間に採集した化石鉱物を展示公開し、化石鉱物の魅力を紹介します。また、一〇年の活動のあゆみを振り返ります。
(自然担当 小澤義春)

冬の展示は平成二一年二月七日(土)~四月五日(日)まで

常設展示室 歴史・美術テーマ展示

「けんばくの宝庫」
 会期 八月二十六日(火)～一〇月五日(日)
 「寄贈記念 近世商家の文化」
 大和弥コレクシオン
 会期 一二月二九日(土)～
 平成二二年一月二二日(月)

常設コーナー拡大展示

「戊辰戦争140年記念展」
 会期 九月一七日(水)～一〇月一九日(日)

ミュージアムイベント

「暫女唄を知っていますか」
 出演 暫女唄伝承者 萱森直子さん
 画家 木下 晋さん
 日時 一〇月一八日(土)午後一時半～三時
 福島県立博物館友の会20周年記念講演会「北の炎」
 講師 作家高橋克彦さん
 日時 一二月一五日(土)午後一時半～三時
 「クリスマスコンサート」
 出演 未定
 日時 一二月二〇日(土)

木曜の広場

場所 講堂 入場無料

会津学講座
 第七回 会津の焼畑と火耕
 講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
 日時 一〇月二日(木)午後一時半～三時
 第八回 森のめぐみと民俗 森林文化の世界
 講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
 日時 一二月六日(木)午後一時半～三時
 第九回 雪と農業 『会津農書』にみる雪
 講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
 日時 一二月四日(木)午後一時半～三時

講演・講座

は要申込

企画展関連行事
 記念公演
 「暫女唄 祭文松坂(巡礼おつる)」
 出演 暫女唄伝承者 萱森直子さん
 日時 一〇月一八日(土)午後三時半～四時半

「香村が見た聞いた江戸時代の怪事件」
 出演 詩人 和合亮一さん
 FTVアナウンサー 浜中順子さんほか
 日時 一二月一六日(日)午後一時半～三時

記念講座
 「見てみよう やってみよう 江戸の芸能体験1」
 講師 会津能楽会のみなさん
 日時 一〇月二二日(日)午後一時半～午後三時
 「見てみよう やってみよう 江戸の芸能体験2」
 講師 会津能楽会のみなさん
 日時 一〇月二六日(日)午後一時半～午後三時

展示解説会 古美術の見方入門
 講師 学芸員 川延安直
 日時 一〇月二二日(日)午後一時半～三時
 日時 一〇月五日(土)午後一時半～三時
 日時 一〇月五日(土)午後一時半～三時
 日時 一〇月二二日(日)午後一時半～三時

自然史講座
 「化石をさがそう」
 講師 学芸員 竹谷陽二郎
 日時 一〇月四日(土) 午前八時半～午後四時半

「化石標本を作ろう」
 講師 学芸員 相田優
 日時 一〇月五日(日)午後一時半～三時半
 「鶴ヶ城の野鳥」
 講師 鳥類研究家 古川裕司さん
 日時 一二月一六日(日)午後一時半～三時半

「地球と生命の共進化」
 地球史年表をつくって学ぶ
 講師 学芸員 小澤義春
 日時 一二月一六日(日)午後一時半～四時

民俗講座
 「算の民俗2、会津の皮算作り」
 講師 学芸員 鈴木克彦
 日時 一〇月四日(土)午後一時半～三時
 「算の民俗3、モノづくりとモノ売りの
 タイナミズム 北陸地方の算の話」
 講師 日本民具学会会員 榎美香さん
 日時 一〇月一三日(月)祝日 午後一時半～三時

「縁起物を作ろう 鯉の滝登りを描こう」
 講師 福島大学准教授 渡邊晃一さん
 日時 一二月二日(日)午前二時～午後四時
 「縁起物を作ろう やきもので作る七福神」
 講師 陶芸作家 金山忍さん
 日時 一二月二日(日)午後一時半～三時
 展示室講座5、大和弥コレクシオンについて
 講師 学芸員 川延安直
 日時 一二月六日(土)午後一時半～三時

算の民俗4、算をめぐる民俗
 講師 学芸員 佐々木長生
 日時 一二月一六日(日)午後一時半～三時

考古学講座
 「土器焼き」 募集終了
 講師 学芸員 大竹正浩 ほか
 日時 一〇月二二日(日)午前二時～午後四時
 「古代のアクセサリーを作ろう」
 講師 学芸員 藤原妃敬
 日時 一二月九日(日)午前二時～午後三時

美術講座
 「縁起物を作ろう 鯉の滝登りを描こう」
 講師 福島大学准教授 渡邊晃一さん
 日時 一二月二日(日)午前二時～午後四時
 「縁起物を作ろう やきもので作る七福神」
 講師 陶芸作家 金山忍さん
 日時 一二月二日(日)午後一時半～三時
 展示室講座5、大和弥コレクシオンについて
 講師 学芸員 川延安直
 日時 一二月六日(土)午後一時半～三時

歴史講座
 「資料が語る人物史1、直江兼続と上杉景勝」
 講師 学芸員 高橋充
 日時 一二月八日(土)午後一時半～三時
 「資料が語る人物史2、三島通庸と平島松尾」
 講師 学芸員 星 幸
 日時 一二月三日(土)午後一時半～三時

保存科学講座
 「バックヤードから見た博物館」
 博物館では虫・カビの害をどのように防いでいるのか
 講師 学芸員 松田隆嗣
 日時 一二月三〇日(日)午後一時半～三時

実演
 「注連縄づくり」
 講師 伝統技術保持者 鈴木幸雄さん
 日時 一二月一四日(日)午後一時半～三時半

「おもちやをつくらうはしこくたりを作ろう」
 講師 展示解説員 大坪千絵美 ほか
 日時 一二月二二日(日)午後一時半～三時半

「おふつかんで遊ぼう!」 場所 体験学習室

実技講座

は要申込

「唐人凧づくり」
 講師 伝統技術保持者 鈴木英夫さん
 日時 一二月七日(日)午後一時半～三時半

体験講座

は要申込

「おもちやをつくらうはしこくたりを作ろう」
 講師 展示解説員 大坪千絵美 ほか
 日時 一二月二二日(日)午後一時半～三時半

はくぶつかんで遊ぼう!

場所 体験学習室

「おふつかんで遊ぼう!」
 講師 展示解説員 大和田実弘 ほか
 日時 一〇月二五日(土)午前九時半～午後四時半
 「折り紙でクリスマスカードをつくらう」
 講師 展示解説員 一条稚子 ほか
 日時 一二月二三日(土)午前九時半～午後四時半
 * 時間内随時受付所要時間二〇分程度
 * 一二時～午後一時 休憩

* 要申込の行事は基本的に開催日の一ヶ月前より募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
 * その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

一 三月(月) 祝文化の日

企画展無料開放日

一 一月一日(土)～一月七日(金)
 * ふくしま教育週間に限り、小・中学生、高校生は企画展を無料でご覧いただけます。

一二月の休館日

一〇月 六日(月)・二〇日(月)・二七日(月)
 十一月 〇五日(月)・一七日(月)・二五日(火)
 十二月 一日(月)・八日(月)・一五日(月)・二二日(月)・二四日(水)
 年末年始 一二月二八日(日)～一二月五日(月)